2011年10月(日本国大使館)

安 全 情 報

～いかさま賭博に注意(水戸黄門編)～

「自分の身は、自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

《今回は、プノンペン市内で発生した邦人被害の「いかさま賭博事件」を紹介し、注意喚起させていただきます。》

～西山荘で余生を送る黄門様に弥七から矢文が届きます。して、黄門様は…。～

助さん：ご老公。

黄門様：おー助さん、何だね。

助さん：弥七から矢文が…。

弥七からの情報によると、どうも最近、カンボジアにおいて日本人旅行者を狙った、いかさま賭博が横行しているとのこと。いかがされますか？

黄門様：ほぼー、あのカボチャの伝来やアンコールワットで有名なカンボジアで、ですか。カンボジアに行って悪党どもを退治したいのは山々だが、わしは、ここ西山で余生を送る身、とりあえず弥七にどのような輩による仕業か、そのへんを調べていただきますしょう。

助さん：ははっ。

…数日後…

助さん：ご老公、例のいかさま賭博について弥七から報告がありました。

黄門様：どのようなものでしたかな。

助さん：はっ。

東南アジア系の女性2名が観光地において、日本人の単独旅行者を物色し、日本語で「日本人ですか。」と声を掛け、「妹が、日本に行くので日本の情報が欲しい。日本について教えてもらいたい。」又は、「母が、来週日本に行って目の手術をする。心配である。日本について教えてもらいたい。」などと近づき、英語混じりの片言の日本語で、世間話を始め、相手を安心させるとのことです。

さらに、その世間話の中で相手が短期滞在旅行者でクレジットカードを有している人物か、又は多額の現金を所持している人物かどうかを何気なく聞き出し、騙されやすい性格かどうかを見抜くというのです。

要は、いい鴨になるかどうかを判断するということです。

黄門様：ほぼー、瞬時にして鴨かどうかを見抜くとは、よほど嗅覚が発達した輩ですね。

格さん：ご老公、それはどういうことですか？

黄門様：金の臭いに群がる輩ということですよ。

助さん：特に日本人は、異国において金のにおいを漂わせているようですからね。

格さん：なるほど。では、ご老公には、やはり悪党の臭いが...

黄門様：うむ。して、その後は、

助さん：はっ。

声を掛けて、これはと思う鴨、いや人物であれば、言葉巧みに奴らのアジトである自宅へ連れて行き、そこで家庭料理をご馳走する。

料理自体は、大した料理ではなさそうですが、やはり見知らぬ国で、声を掛けられ、知り合った女の家族と一緒に家庭料理を頂くということで、被害者は「良い人達なんだ。」と安心してしまうそうです。

その後は、完全に奴らのペースとなりカードゲーム（ブラックジャック）をすることとなる。

格さん：じゃ、八兵衛なんぞは、すぐに鴨にされてしまいますね。

黄門様：いや、八兵衛にはお金のおいがないので、その辺は大丈夫でしょう。しかし、ブラックジャックといっても誰もが出来るものではないでしょう？

助さん：はいそこですが、これも奴らの悪賢いところで、仮に被害者がブラックジャックを知らないのであれば、その場で手取り足取り懇切丁寧に教えてくれるとのこと。

被害者としては、自分の知らなかったことを教えてくれた良い人ということで、さらに、奴らに対して感謝の念を抱くというのです。

格さん：日本人は、特に情に厚いですからね。

黄門様：そんな日本人の特質を承知の上で、日本人に狙いを定めてくるのでしょう。して結果は、どのようになるのですか、助さん。

助さん：はい。最初は、単なるカードゲーム（ブラックジャック）で楽しむのですが、ゲーム中に奴らのアジトに友人（奴らの仲間で、国際ビジネスの社長との触れ込み）が訪れるのです。

そして、奴らは日本人（被害者）に、「手を組んで、訪問した友人から現金を巻き上げよう。」といかさま賭博を持ちかけるとのこと。

勿論、このときは、奴らの言いなりですから、いかさまの方法を教えてもらいゲームに勝つのですが、徐々に相手の掛け金がつり上がり、いかさま賭博をしている日本人側も相手の金額に応じて掛けなくてはならないため、キャッシングに連れて行かれ現金を引き出してまで金を掛けたり、又は、宝石店へ連れて行かれクレジットカードを利用して宝石を買わされ、その宝石を換金することで掛け金にあてたりと、この段階ではターゲットにされた日本人は、自分が被害にあっているとは気がつかないとのこと。

それは勝負の結果が、奴らとグルになったいかさまにより勝つことが判明しているため、勝負に勝って大金を得ることが出来るという欲の方が強いからだそうです。

そのため、奴らと必死になって金策に周るのですが、アジトに戻ったときには、知人の会社の社長という人物は大事な仕事があるとのことで帰ってしまっており、オープンを明日にしようと、とりあえず金だけを積んで賭場をそのままにしておくそうです。

そして、日本人の被害者に奴らの携帯電話を預け連絡を取り合うことが出来ると安心させ、ゲストハウスに送るのだそうです。

ゲストハウスに着いて、もしかしてと初めて不審の念を抱き、電話を掛けるも先ほどまで繋がった電話が掛からない。さらには、地理不案内であるため、アジトへ再び訪問することは不可能となり、いかさま賭博の被害にあったことがここで初めて判明する。と、このような状況で、中には1万ドル近く騙された日本人旅行者もいるようです。

黄門様：うむ、これは、けしからんな。

格さん、助さん。悪党を懲らしめてやりましょう。と言いたいところですが、わざわざここ西山荘で余生を送る身、まずは、旅行者に注意喚起をして下さい。

助さん、格さん：ははっ。

黄門様：格さん例のものを。

格さん：はっ、旅行者の皆さん、以下の「ご注意」をしかと肝に銘じ、カンボジアで楽しい旅行が出来るよう祈念申し上げます。

「ご注意」

見知らぬ者に声を掛けられても不用意に相手にしない！

親しげに声を掛けてくる人物に注意！

最近カンボジア国内において、東南アジア系の外国人が日本人観光客に親しげに声を掛けてきて家などに誘い込み、カードゲーム（いかさま賭博）に参加させ、現金を詐取するという事件が発生しています。

「妹が日本に行くので、家に来て日本の話をしてもらいたい。」等と誘われても絶対についでいけないよう注意して下さい。

現実にかさま賭博で騙され、多額の現金を巻き上げられた日本人がいます。

狙われるのは、一人歩きの日本人観光客がほとんどです。

カンボジアが安全になったといえども、まだまだ単独旅行は危険です。

地元カンボジア人でさえも、単独旅行は危険であることを承知しています。

まして、地理不案内、言語の異なる土地において、警戒心の薄い日本人の単独旅行は大変危険です。

やむを得ず単独旅行をされる方は、親しげに声を掛けられても警戒心を持って対応し、おかしいと感じたら、はっきりと断ってすぐその場を離れるようにして下さい。

以上